

乳がん 高度検診・治療センター NEW-す NO.81

2021.2

乳がんの寡分割照射について

この度、乳がんの乳房温存手術を受けた患者さんに、寡分割照射という放射線治療を行える様になりました。どんな治療なのか、ご説明いたします。

寡分割照射は、「かぶんかつしょうしゃ」と読みます。「寡」は少ないという意味で、従来よりも照射回数が少ないスケジュールで行う方法です。利点は、治療期間が短く済むことです。欧米では以前から広く行われており、近年、日本国内でも導入する病院が増えています。

当院の照射方法を、表にしてお示しします。

	1回線量	照射回数	合計線量	治療期間
標準スケジュール	2グレイ	25回	50グレイ	約33日
寡分割照射	2.66グレイ	16回	42.56グレイ	約22日

照射する放射線の種類や、照射する範囲には、違いはありません。病状により、数回程度の追加照射を行う事があります。



寡分割照射を受けるための条件はありますか？

当院では、乳がん診療ガイドライン(2018年版)に基づき、寡分割照射を「50歳以上、pT1-2N0、全身化学療法を行っていない方」という条件に当てはまる患者さんに対してのみ、行っています。自身が条件に当てはまるかどうか分からない方は、医師にお尋ねください。条件に当てはまる方であっても、寡分割照射を希望されない場合は、標準スケジュールの治療を受けることも可能です。



保険診療になりますか？

これまでに行われた臨床試験では、寡分割照射の治療効果(再発率を下げる)や、副作用の程度は、標準スケジュールと変わらない事が確認されています。これらの結果をふまえて、平成26年4月より、寡分割照射が保険診療で認められています。ただし、国内の長期間のデータはまだ無いため、今後とも検証が必要です。



がん保険に加入していますが注意することはありますか？

寡分割照射の場合、放射線治療にかかる費用の総額は、標準スケジュールより少し安くなります。ただし、がん保険に加入している患者様は、合計照射線量の条件(50グレイ以上、等)が無いが、保険会社にご確認ください。その場合、寡分割照射を受けても保険金が支払われない可能性があります。

市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865

放射線科 古妻 理之

